

マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
TEL093-321-2931(担当：櫻谷)

第84号 平成24年9月



波を船首から受け海水が船内に入り転覆したプレジャーボート



波を船側から受け海水が船内に入り転覆したプレジャーボート



波を船側から受け転覆した手漕ぎボート



波が船内に入り機関が停止し、漂着したプレジャーボート

7月から9月にかけて、プレジャーボートやミニボートなどが波を受けて転覆し、乗っていた人が海中転落したり、波による海水の流入により機関が停止して、漂流するなどの事案が多く発生しました。9月に発生した事案は、プレジャーボートに3名が乗船し釣りをしていたところ、風が強くなってきたことから港に帰ることとし、強い風の中を航行している途中で船尾方向から波を受け、船内に海水が流入し転覆したものです。乗船していた3名は海中に投げ出されましたが、間もなく付近を航行していた船に救助されました。3名がライフジャケットを着用していたことも無事に救助された要因でした。また、水上オートバイを運転中に横波を受け海上に投げ出されてしまう事案や、ミニボートや手漕ぎボートで釣りに出ているときに波を受けて転覆した事案、海水が船内に入り機関が停止し復旧できずそのまま漂流して、テトラポット付近に漂着した事案がありました。小さい船にとっては、風浪やうねり、航走波といった波による影響は自船の航行に大きな影響を及ぼしますので注意が必要です。また、海上の様子は、天候により大きく左右されます。天気予報でわか雨が予想される日などは、雨の直前に急に風が強くなるなど、海の様子が一変することも多々あります。風が強くなくても降雨により視界が急激に悪くなり、自分の船の位置がどこかわからなくなりパニックになることもあります。まだまだ天気が安定しない日が続いていますが、マリンレジャーに出かける際には天気予報の細めなチェックをお願いします。また、自分の命を自分で守るため、また同行者の命を守るために、ライフジャケットの着用の励行をよろしくをお願いします。

海で命を守る 3つのポイント

- ライフジャケットの常時着用
- 連絡手段の確保
防水携帯電話の携行!
- 海のもしもは「118番」



海上保安庁第七管区海上保安本部



バックナンバーはこちら

http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anken_report/

注意！！曳航遊具に関する重大事故が発生しています。

プレジャーボートでウェイクボードを楽しんでいる方の他に、最近では円柱状のバナナボート、円盤状のゴムボート、角状のチューブボート等の浮体を手軽に購入して、プレジャーボートや水上バイクで曳航して楽しんでいる方も多いかと思います。また、浮き輪代わりにこれらにつかまって海水浴を楽しんでいる方もいると思います。

これらの遊具の使用は、スピード感や躍動感が楽しめる反面、プレジャーボートや水上オートバイの操船者や遊具の搭乗者が事故にあうリスクが高いこともしっかり認識しておく必要があります。また、遊具によっては、海面を滑走するものの他、海面から浮き上がる構造になっているものもあり、このような遊具の特性についてもしっかり認識しておく必要があります。

これら曳航遊具は、ロープ等によりプレジャーボートや水上オートバイで曳航することから、例えば曳航され張力のかかったロープに安易に触れたために、ロープが指に絡まり怪我をしたり、ひどい時には指を切断するという事態になることも考えられます。

また、初心者の方が乗る場合に遊具から落水した場合の危険性等について、十分に説明を受けていない場合が多いようです。

遊具から転落した場合、体を海面へ強打することによる骨折や内臓の損傷、強打に伴う気絶や意識があっても手足がしびれて動かないことによる溺水、転落に伴う他のプレジャーボートや水上オートバイとの衝突など多くの危険が存在しています。

これら曳航遊具を使用する際には、

- ・操船者自身が、曳航遊具の特性や危険性を十分に理解し、事前に搭乗者に対して上記危険性を十分に説明した上で、搭乗させる。
- ・操船者はもとより、搭乗者に対しても救命胴衣を着用させる。
- ・操船者は、搭乗者の経験・技量をしっかり把握し、搭乗者が落水しないような適度な速度で航走するとともに、急激な転舵を行わないようにする。また、後方を確認できる監視員をつけ、操縦者と連携し、曳航する浮体・搭乗者をしっかり継続確認する。
- ・他の乗り物、構造物、遊泳客と衝突することのない、広い海域を選ぶ。

ことをしっかり心がけてください。

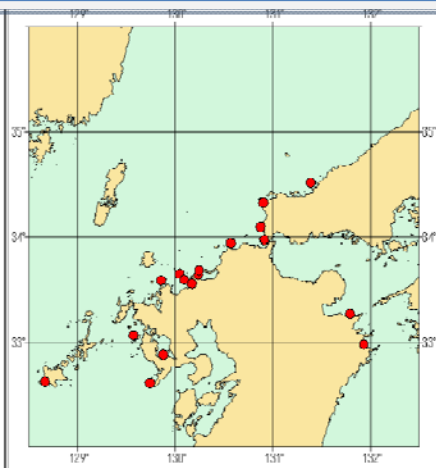


マンタ



バナナボート

●平成24年8月プレジャーボート等海難発生地点図



平成24年マリンレジャー事故発生状況					
船舶事故隻数			海浜事故者数		
海難種類	8月	累計	レジャー種類	8月	累計
衝突	1	17	釣り中	2	13
機関故障	2	30	遊泳中	11	19
乗揚げ	3	9	磯遊び	1	2
運航阻害	5	28	その他	7	14
安全阻害	1	3			
その他	5	20			

発航前点検をお忘れなく！ (その3：機関の点検・後編)

潤滑油の点検

○ オイル量及び性状

エンジンオイル及びギアオイルの油量や性状を確認していますか？

オイルレベルゲージで油量及びオイルの性状を確認しましょう。

オイルが乳化（白濁）している場合は水分の混入、金属粉がある場合は部品の磨耗が考えられます。

オイルは、油量減少の場合は補給、乳化等の場合（水分混入箇所の確認）や規定時間（期間）運転したら交換しましょう。



オイル量計測状況



(正常)

(乳化)

オイルの性状

○ 混合油

小型2サイクルエンジン（船外機）の場合、燃料油に潤滑油を混合して使用するものがあります。

専用のオイルを使用のうえ、規定の割合で混合した混合油を使用しましょう。

（割合等の詳細は、取扱説明書を確認ください。）

○ オイルフィルター交換

オイルフィルターを定期的に交換していますか？

規定時間（期間）運転したらオイル交換、フィルター交換を行いましょ。



船内機



船外機

その他の点検

○ 点火プラグ

セルモーターが回るのにエンジンが始動しない場合はありませんか？
点火プラグ電極がカーボン（煤）や燃焼不良の燃料油等により汚れている可能性があります。
整備、交換を行いましょう。



点火プラグ



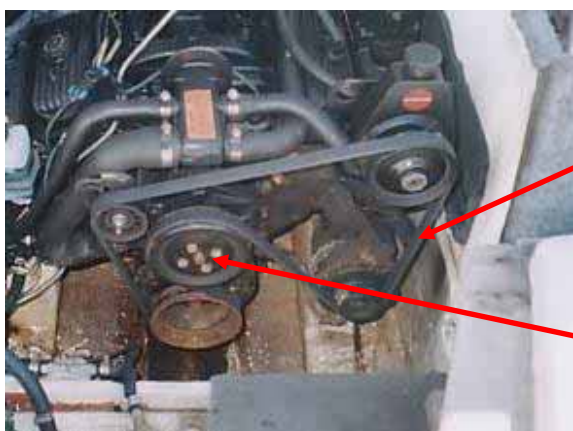
汚損状況



整備後の状況

○ Vベルトの状況

Vベルトのたわみが大きすぎ、または、張りすぎていませんか？
Vベルトの鳴き（キュキュという音）やVベルトの亀裂など見受けられませんか？
Vベルトの張り具合を調整し、劣化している場合は交換しましょう。



V
ベ
ル
ト

プ
ー
リー



○ 試運転

しばらく航行していなかった船舶を運航する際には、試運転をしっかり行い、各部の点検を実施しましょう。

短期間の試運転では、異常が見つからないことがあります。

長期間保管していた船舶は、「始動前の点検」、「試運転」、「試運転後の点検」を確実にいき、状況を確認した後、出航するようにしましょう。

○ エンジン全般の状況

試運転に限らず、通常航行中において、エンジンからの漏油、漏水、異音、振動、焦げた匂い等今までの使用状況と違う状態となっていないか注意しましょう。

正常な運転状況を覚えておき、「いつもと違う!？」がある場合には、点検、整備を行いましょう。

*** 船によって構造や機関の種類が異なります。詳しくは購入時の取扱説明書等を確認ください。**